

令和3年5月1日

関係各位

長野県細胞検査士会会長 小林 幸弘

子宮頸がん予防啓発活動に対するご協賛のお願い（依頼）

謹啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は、当長野県細胞検査士会および所属細胞検査士にご配慮いただきありがとうございます。

さて、長野県細胞検査士会（会員総数150名）は県内の子宮頸がん予防啓発活動に取り組むべく啓発活動を行っております。今年も下記の通り啓発資料配布と啓発イベント第11回「愛は子宮を救う」を第35回日本臨床細胞学会関東連合会の開催に合わせ企画しております。

昨年第10回「愛は子宮を救う」では新型コロナ禍でもできる形を模索し「パネルディスカッションの動画配信」と、「子宮頸がん予防啓発資料の県内中学2年生全員への配布」を行いました。その活動が新聞記事として掲載され長野県内はもちろん、県外の大学や小児科医会からさらには関東圏の個人からの問い合わせなど大きな反響がありました。また、啓発冊子を親子で読んだことでワクチンについて考え接種するきっかけになったという報告や冊子のマンガやイラストが多く生徒たちも興味をもって手にしやすいという感想も寄せられました。

新型コロナ禍の状況は続いておりますが子宮頸がんに罹患される若い方が増えている現状には変わりありません。日々がんに関わる仕事をしている団体として、子宮頸がんがHPVの感染が原因であることや、予防には検診やHPVワクチンが重要なことを伝えていく責任があると考えます。

それにより子宮頸がんを苦しむ若い女性が一人でも少なくなるよう活動していきたいと思っております。

現在の経済状態はかなり厳しいことを承知の上ですが、ご理解ご協力いただけますようお願い申し上げます。

謹白

記

- 企画1. ①子宮頸がんに関する啓発冊子を作成し、県内の中学2年生全員に配布
② 啓発冊子を長野県内産婦人科医会・小児科医会会員に各10冊配布
③ 啓発冊子を県内の高校養護教諭に配布
- 企画2. 信濃毎日新聞に子宮頸がんについてとパネルディスカッションの内容を掲載
- 企画3. 第35回日本臨床細胞学会関東連合会に合わせたイベント開催
 - ① 子宮頸がんについてとパネルディスカッション
 - ② 子供たちのダンスとプロのボサノバ音楽のステージ

担当：JA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院

臨床検査科 中村 恵美子

TEL：026-292-2261

FAX：026-293-0025

E-mail: e_hanamame@yahoo.co.jp